



# 若者国際連合-9

UNITED NATIONS FOR YOUTH  
～核ミサイルにどう対応するか～

mor i 3580

東京都議会議員選挙が終わり、小池知事を支持する勢力が過半数を占めた。知事が自ら代表を務める「都民ファーストの会」が第1党となった。自民党は現有の57議席から、これまでの最低であった38議席を下回る歴史的な大敗となった。結局自民党は23議席となった。小池知事は「都民目線の成果を認めて頂いた」とご機嫌であった。

このところアメリカの大統領選挙、イギリスのEU離脱の国民投票、フランスの39歳の大統領誕生、北朝鮮のICBM発射実験の成功の発表など世界を騒がすことが続いている。とくに北朝鮮の問題は、日本では避難訓練を行うなど、過剰反応ともいえる対応をしている。

こういう国際情勢の中で、日本はどうすべきか、我々日本人はどう生きるのかを考えてみたい。

まえがき

第1章 都議選、知事派圧勝

Q：都議選が終わったがマスコミの反応は？

Q：あなたの感想は...？

第2章 「今はただ我慢比べの時」の裏付け

Q：「今はただ我慢比べの時」という根拠は？

Q：それだけでは安心できないという人には...？

Q：韓国抜き of 会談を持ちかけた、というが？

Q：結局どこへ核爆弾を打ち込みたいのか？

Q：ミスで発射ボタンを押すこともあるだろう？

Q：過剰反応とは...？

Q：「こちらにも核兵器をもちたい」という考え方は...？

Q：韓国には核武装をすべきだという政治家も出てきたが...？

Q：ロシアや中国の態度は...？

Q：「我慢比べ」はいつまで続くのか？

Q：核開発自体はどう見ているのか？

Q：発射ボタンを押させないために役立つことは？

Q：目標と7センチしか外れていない写真？

Q：その目標を実現する別の方法は？

Q：相手に伝え、方針を変えさせる方法は...？

第3章 核兵器禁止条約、国連で妥結

Q：核兵器禁止条約が国連で妥結したって...？

Q：日本はどうしたの？

Q：どのくらいの国が参加したのか...？

Q：どういう行為が違法となったの？

Q：北朝鮮のやったことは全部だめとなるが...？

Q：これからの課題は...？

Q：廃絶の方向性は分かったが...？

Q：我慢できるだろうか？

Q：先はどうなるのか？

Q：世界の若者たちはどう感じているのか？

#### 第4章 「生の文明」追求に切り替えよう

Q：「生の文明」ってなに？

Q：選挙の結果が間違えるのはそういうことか？

Q：「死の文明」から「生の文明」への切り替え、上手くゆくか？

Q：生き生きと希望を持って生きるには何が大事？

Q：毎日が暗いと感じている人の方が多いのでは？

Q：常に上機嫌でいることは難しい...？

あとがき

Q：都議選が終わったが、マスコミの反応は...？

A：テレビ・ラジオ・週刊誌は分からないが、新聞の反応は次の通り。

2017年7月3日朝日新聞朝刊「小池知事派過半数 自民惨敗過去最低 「安倍一強」に大打撃」という一面トップの大見出し。関連記事として「首相の求心力低下」「五輪や市場、都政どうなる」「自民逆風、国政に恨み節」などのほか社説では「政権のおごりへの審判だ」と題して「数の力で議論封殺 臨時国会を召集せよ 小池都政も問われる」などの小見出しのある記事があった。

同日付け毎日新聞朝刊「小池系圧勝都民フ第1党 自民歴史的惨敗 安倍政権に打撃」の一面大見出し。関連記事として「小池氏基盤固め」「自民逆風で崩壊」「無党派層都民フへ」「都民変革に期待」があり、政治部長佐藤千矢子の署名記事「首相は謙虚さを」と題する一文があった。

同日付け読売新聞朝刊「小池氏勢力過半数 自民歴史的惨敗 都民ファ第1党」の一面大見出し。政治部長前木理一郎氏の署名記事「1強おごり改めよ」と題する一文があった。

同日付け産経新聞朝刊「小池勢力が圧勝 自民惨敗25割れ」と一面大見出し。主張という他社の社説欄では「小池勢力圧勝 都政改革の期待に答えよ」との記事があった。

次は経済専門紙。同日付け日本経済新聞朝刊「小池系が過半数 自民惨敗安倍政権に打撃 都民フ、第1党に」の一面大見出し。ほかに編集委員 大石格氏の署名記事「対決型政治に限界」があった。社説では「安倍自民は歴史的な大敗の意味を考えよ」と題して、政権のおごりが大敗の原因という一文があった。

次は地方紙。同日付け東京新聞朝刊「小池知事勢力が過半数 自民歴史的な大敗 安倍政権に打撃」と一面大見出し。政治部長 金井辰樹氏の署名記事では「聞く耳持たないツケ」と題して、政権のおごりが招いたとの記事があった。

同日付け神奈川新聞朝刊「小池氏勢力過半数 都民ファースト第1党に 自民惨敗政権に打撃」と一面大見出し。

どの新聞を見ても、自民のおごりが招いた大敗とあるので、他の新聞も大同小異であろうと思った。

Q：あなたの感想は...？

A :

1. 日本には「おごれるもの 久しからず」という言葉があるが、まさにそれが証明されたと感じた。国政における政権の横暴さをおごりととらえていた都民が多かったのである。
2. イギリスのEU離脱、アメリカのトランプ大統領の誕生などは大衆迎合主義・ポピュリズムと評価されることがあったが、今回の都議選では「暮らしを良くするのが政治」という政治の原点を感じた。国民投票や国政選挙ではなく、生活に密着した地方議員選挙だったかもしれない。
3. 都政の抱えている課題はたくさんあるが、都民の気持ち・都民の目線に立った政策を行なってゆけば良いのであろう。小池チルドレンがおごり高ぶることのないように指導するのは知事の役目であろう。
4. 「都民ファーストの会」と「米国第一」を唱えるトランプ氏とどう違うのか？ファーストという点では同じだが、これからはっきりしてくるのであろう。経済力・軍事力では現在もアメリカが世界一と思っている人は多いから、この上さらに「米国第一」を唱えるのは、国際的に通るはずがないと思っている人は多いと思う。東京人以外の人の中には、すでに「東京第一」と思っている人は多いと思う。いまさら「都民ファーストの会」とはなにごとかと思う日本人がいるかもしれない。
5. 今回選挙の投票率は51%台と聞いたが、これで良いのだろうか？自分で自分の生活をよくする投票の機会はそうそうないのだから。もう少し投票率を上げたいと思うが、どうだろうか？投票結果について、都民有権者の二人に一人の意見にすぎない と言われたらどう答えるのだろうか？

若い人たちからの質問で、次に多かったのは北朝鮮の問題であった。今にも核爆弾が頭上に飛んでくるような心配をしている人もいたが、それでは神経が参ってしまう。前号で私は「今はただ我慢比べの時」と書いたが、「その根拠は？」と聞かれることが多かった。

Q：「今はただ我慢比べの時」という根拠は？

A：北朝鮮がいつどこへ核爆弾の発射ボタンを押すのか、押さないのか誰にも分からない。私は核爆弾の発射ボタンを押すことはないと思っている。

その根拠は、

- ①人類は核兵器を人類全滅に十分なほど持ち、世界各地・各国に拡散させている。
- ②核爆弾による放射能は国境を越え、どんな壁でも防げない。
- ③敵を殺すが味方を殺す可能性を否定できない。
- ④北朝鮮は海（日本海）にばかり発射して実験中とみずから発表している。（陸地を狙えばどこかの国の領土であり面倒が起きる）
- ⑤大陸間弾道弾（ICBM）の成功によりアメリカ本土を直接狙える技術力があると世界を認めさせた。

Q：それだけでは安心できないという人が多いと思うけど...？

A：もしも実際に発射したら、全世界の核兵器の多くが平壤に照準をあわせて発射される恐れがある。核開発は、アメリカを交渉のテーブルにつかせ、交渉を有利に進めるための道具に過ぎないと思っている人が多いというが、私も北朝鮮が実際に発射することはないと思っている。人類全滅につながる恐れのあることはやらない。それ程バカではないと思っている。

Q：北朝鮮がアメリカに、韓国抜きでの会談を持ちかけたとの話が伝わったが...？

A：韓国は話し合い路線を主張する文大統領が生まれたが、北朝鮮は話し合いによる民族統一を嫌っているようだ。第2次世界大戦の終了時に、米ソ両大国の都合により、ドイツ民族と同様、朝鮮民族は無理矢理分断されたが、同一民族の分断は悲劇である、と伝えられ、私もそう思っていた。しかし東ドイツが西ドイツに吸収合併されたようになり、北

朝鮮という国は現体制のまま残したいという北朝鮮トップの意向と違っている。私は韓国抜きで会談を提案したという北朝鮮に対し、同一民族に核兵器を使いたくないという意図を感じた。

Q：結局どこへ核爆弾を打ち込もうというのか？

A：実際には、どこへも打ち込みたくないのだろう。一旦打ち込んだら、後始末が大変、人類全滅の恐れがある。核開発は、アメリカとの交渉を有利に進める手段であろう。打ち込むとすれば、アメリカ本土であり、その方がアメリカの世論を、交渉のテーブルにつかせるには効果的と思っているのだろう。

Q：人間はミスを犯す動物といわれるが、ミスで発射ボタンを押してしまうことがあるかもしれない...？

A：それも考えておかなければならない。だから実際に発射することはないと思っても、覚悟は必要だろう。それとあまり騒ぎ立てないことも必要と思う。脅威におびえて過剰反応すれば、冷静に判断することができなくなる恐れがある。

Q：過剰反応とは...？

A：国境地帯の軍備拡張とか、核兵器の増強とかの反応をすれば、当然相手を刺激することになる。相手が冷静ではいられなくなることは極力避けたほうが良いと思う。有事の際に備えての避難訓練などもどうだろうか？要は、なにがあっても普段と変わらない態度や生活でいることだと思う。

Q：「こちらにも核兵器をもちたい」という考え方は...？

A：最も悪い対応だと思う。核兵器部門における軍備拡張競争に巻き込まれるだけだと思う。そうなったら、すべての国力を上げて軍備拡張に取り組まざるを得なくなり、民生の向上は長期的に犠牲になることを国民が納得するかどうか問題だ。私は少年の頃の体験から「子供の衣食住と基礎教育はおとなの責任」と思っているから、核武装には反対だ。

Q：韓国の政治家の中には、核武装すべきだという人もいると伝えられたが...？



A：韓国は北と同じ民族だから、日本とは考え方が違うのだろう。日本の政治家の中にも、核武装を考える時だ、という人も出てくるだろう。若い人たちの中にも、迷う人が出てくるかもしれない。

Q：ロシアや中国の態度は...？

A：北朝鮮の核開発継続や実験を苦々しく思っているようだが、アメリカとの違いをどう出そうかと迷っているように私には見える。特に中国は再三アメリカのトランプ大統領から「もっと強く出る」ようにいわれても動かないのは、アメリカとの違いをどう出すか考慮中なのではないか、と私は感じている。ここでもしばらくは「我慢比べ」の時期なのだと思う。

Q：「我慢比べ」はいつまで続くのか...？

A：それは誰にも分からない。核爆弾の発射なしに「我慢比べ」が10年続いたら素晴らしいことじゃないか？戦争を10年続けるよりも、平和を10年続ける方が難しいことが分かったと思う。日本は第二次世界大戦終了後80年も平和を満喫し、軍事力には目もくれず民生の向上に専念したから、生活水準も上がり、世界第2の経済大国といわれるまでになった。平和のありがたみは身に染みている

Q：北朝鮮の核開発についてはどう思うのか？

A：核開発と民生の向上とは両立しないと思う。民生が犠牲になっていると思う。旧日本軍も直接アメリカを攻撃しようと風船爆弾を考えたが、果たせないうちに戦争に負けてしまった。その頃の日本人の生活がみじめなものであったことは体験で分かっている。アメリカを交渉のテーブルにつかせるにはほかの方法もあるのではないか？

人類は長年の間、人を殺す「死の文明」を追求してきたが、とうとう核兵器まで行き着いてしまった。しかも人類全滅を意図できるほどの質量になり広く拡散してしまった。これからは民生の向上を直接めざす「生（せい）の文明」の追求が求められる時代である。「死の文明」から「生の文明」に切り替えたいという人が、世界で選挙が行われるたびに、世界的に増えているのを私は感じている。

Q：発射ボタンを押させないために役立つことは...？

A：私の体験からいえば、

①過剰反応しないこと。避難訓練などをやれば相手が喜ぶだけ。

②戦争の雰囲気近づくと、正常な判断はできなくなる。

戦争の雰囲気を感じさせないこと。

③相手を刺激しないこと。

政治・経済・軍事などの面で、相手に打撃を与えない。

④「子供の衣食住と基礎教育はおとなの責任」という思想を、

相手に伝えること。などが思い浮かぶが...

Q：この間の新聞に、北朝鮮の核に関する技術力が上がって、目標と7センチしかはずれなかった写真が出ていた。このニュースについての感想は？

A：長い間研究していれば技術力は上がるだろう。目標と7センチしかはずれないとすれば、ほとんど命中といってもよいのではないか？狙った的を確実に捕えるという技術力があるということは、狙われなければ不安に思うこともないといえる。

Q：こんなに不安な思いをさせてまで、何を得たいと思っているのか？

A：それは誰にも分からない。話し合っているうちに少しずつ分かってくるのだろう。予想できることは、

①現体制を認めること。

②ならず者国家からはずすこと。

③政治・経済面での制裁措置をやめること。

④核兵器開発の継続をみとめること。

⑤若干の援助を続けること、などである。

Q：核兵器以外、その目標を実現する方法はないのだろうか？

A：ほかにも方法はあると思うが、北朝鮮の首脳は、アメリカに直接核爆弾を打ち込む技術力の確立が最も早いと思っているのだろう。何千発もの核兵器をすでに持っているアメリカとこれから1～2発開発する国とは比較できないほどの国力差があることは分かっている。戦争の最後は国力の差がものを言うことは、私たちの体験ですでに分かっている。

Q：すでに分かっていることを、どうやって相手に伝え、方針を変えさせるか、につい

ては...？

A：それを世界や日本の若い人たちがどう考えるかにお任せするしかない。それまでは「我慢比べ」となるだろう。

Q：核兵器禁止条約が国連で妥結したって...？

A：2017年7月8日東京新聞朝刊に、「核兵器の終わりの始まりだ」禁止条約国連で採択との一面大見出し。「国連本部で制定交渉が続けられてきた核兵器禁止条約は会期末の7日投票が行われ賛成多数で採択された。前文では、被爆者について「核兵器使用の被害者（ひばくしゃ）の受け入れがたい苦しみと損害に留意する」と明記。核兵器の非人道性に焦点を当て、開発や使用など幅広い行為を国際的に違法とし、核廃絶を目指す条約が誕生した。」との記載があった。

Q：日本はどうした...？

A：米国やロシアなどの核保有国と米国の核の傘に守られる日本などは交渉に参加しておらず、実効性が課題となる。

Q：どのくらいの国が参加した...？

A：採択後の記者会見で、ホワイト議長（コスタリカ）は国連加盟国（193カ国）の6割以上の国（122カ国）が賛成したことについて「国際社会にとって歴史的な節目だ」と意義を強調した。

Q：どういう行為が違法となったのか...？

A：禁止事項として、開発や生産、実験、使用などを上げ、これらの行為の援助も入った。さらには当初案にはなかった「使用するとの威嚇」も多くの国からの要請を受けて含まれた。

Q：これでは「北朝鮮のやっていることは全部だめだ」となる...？

A：残念ながら、北朝鮮は参加していない。しかし北朝鮮のやっていることを不安に思っている国が多いことははっきりした。

Q：これからの課題は...？

A：核兵器保有国をいかに説得するか、核廃絶に向け国際世論をどう盛り上げるか、さらには日本自体の問題として、世界で唯一の核兵器の被爆国でありながら、核兵器禁止条約に参加していないのはなぜか、唯一の被爆国ならその残虐さを重視して「核兵器禁止条約」賛成と主張すべきであろうが、アメリカの核の傘で守られている現状から見て、核兵器に関することはアメリカの言いなりになるのが良いという立場もある。このへんを若い人たちがどう判断するか聞いてみたい。

Q：核兵器廃絶の方向性は分かったが...？

A：どう進めるかについて、保有国と非保有国との間でじっくりと時間をかけて話し合う必要があるだろう。非保有国の「核兵器禁止条約」への気持ちは分かったのだから、保有国の本音が聞きたい。核兵器を敵やテロリストに奪われないために、常にいつでも発射できる体制を維持するために、さらにいつでも最強の核の力を発揮するために、莫大な予算と時間を割いていると思う。世界一裕福なアメリカでさえ、その負担に耐えられなくなっているようだ。その予算と時間を民生の向上のために使えば、庶民の暮らしははるかに良くなり、経済格差も解消の方向になることは明らかである。保有国の本音を引き出し、核兵器廃絶の方向に向かわなければ、人類に明日はない。これも「我慢比べ」のうちであろう。

Q：我慢できるだろうか...？

A：これまで人類は、敵を殺す「死の文明」を追求してきたが、人類全滅の恐れのあるところまでできてしまった。戦争と破壊の世紀といわれた20世紀も過ぎ、21世紀に入って10数年、そろそろみんな生きる「生の文明」を追求始めるころと感じる人が、洋の東西を問わず増えてきているようだ。それは各国の国民投票の底流となって表れている。

Q：時代を先読みされても分からない人が多いと思うが...？

A：イギリスのEU離脱の国民投票、アメリカのトランプ大統領選出、フランスの39歳の大統領誕生、日本の東京都会議員選挙などに、私はその底流を感じている。これらの選挙では、若い人ほど賢明な選択をしている、と私は感じている。これから世界は大きく変わる、そのきっかけをつくるのは平和の中で生まれ育った日本の若者たちである。

Q：世界の若者たちはどう感じているのだろうか？

A：15年ほど前のことになるが、私は海外の友人達から「日本はいいね、兵役が無くて...」と何人もの人から言われたのを思い出した。徴兵制度があれば、青春のもっとも大事な時期に何年間かの強制的な兵役があり、その後も40歳ぐらいまでは何年かに一回は兵役につく義務のある国が多かった。これでは思うような人生計画は立てられないという。私が生まれた時はすでに日本でも徴兵制度は当たり前となっていた。

「日本の経済力・技術力があれば、核兵器の一つや二つとつくにできるはずなのに、あえて創らないのは素晴らしい」と言われたこともあった。兵役や核兵器のないことが当たり前になったら、世界の若者や子どもたちはどんなに喜ぶだろう。平和のありがたさが身に染みている、日本の若者たちへの世界の期待は無限大である。国連の事務次長になられた日本人女性と日本の若者たちが協力すれば、世界中の若者と子供に夢を届けることができるのである。

Q：「生（せい）の文明」って何...？

A：「生きている事を大事にしよう」ということ。これまで人類は、敵を殺すいわば「死の文明」を追求してきて、とうとう人類全滅の恐れのあるところまで来てしまった。これ以上「死の文明」を追求することは意味がない。戦争と破壊の世紀といわれた20世紀も終わり、そろそろ、生きていることを大事にする「生の文明」に切り替えることを考える人が多くなってきた、といえるのではないか。

これからは「暮らしを良くするのが政治」と考える人が多くなることは、各国の国政選挙の結果をみれば予測できる。政治や軍事は遅れているが、庶民の意識は、すでに「死の文明」から離れ、「生の文明」へと切り替わっているのである。

Q：それで、このところ選挙の結果が予想と違うことが分かった。マスコミも遅れている...？

A：選挙の有権者はいろいろな世代の人があり、私のように古い世代のものは過去にとらわれることが多い。私は子供の頃「死の文明」にどっぷりつかっているような生活だったが、中学2年の夏敗戦と同時に「生の文明」に切り替わったと思う。「死の文明」はこれからの若い人たちには無縁であろう。

Q：「死の文明」から「生の文明」への切り替え、うまくゆくだろうか？

A：若い人達に任せておけばうまくゆくと思う。分かったようなことを言う年寄は引っ込んだ方がよさそうだ。人間はバカではない。若者たちは、若者と子供がいきいきと希望をもって生きられるようにしてくれるだろう。

Q：生き生きと希望をもって生きるには、何が大事か？

A：将来は必ずよくなる、よくすると思いきこむこと。将来を不安と心配ばかりしては毎日が暗くなり、暗い未来を引き寄せてしまう。現在を暗いと思うより、明るいと思うほうが、楽しい人生につながるというのが、85年生きてきた収穫である。

Q：しかし毎日は暗いと感じている人の方が多いのではないか？

A：「将来は必ずよくなる」と思って明るく生きている方が気分が良いし、気分の良い時が多い方が「幸せな人生」になるのではないか。毎日が暗いと感じる人が多い社会は暗くなり、毎日が明るいと感じる人が多い社会は明るくなる、と私は感じている。上機嫌で生きる方が、自分も周囲も明るくなることは言えると思う。

Q：常に上機嫌でいることは難しいが...？

A：人は周囲に影響を与え、周囲から影響を受ける。どちらも明るい方がいい人生と言えるし、いい社会と言える。第一楽しいじゃないか。これからはみんなで「生の文明」を追求する、明るい社会にしようではないか？



日本には「弱い犬ほどよく吠える」という言葉がある。犬に襲われたら怖いと思う人は多いと思うが、犬は吠えたり噛んだりには同時にできない。吠えているうちは安全なのである。核実験を繰り返し、その成果を誇示するのは、吠えているのと似たようなものだ、と私は感じている。

「我慢比べ」と私が言ったのは、この段階から過剰反応をすると、実際に発射ボタンを押すような雰囲気になってしまうのを恐れているからである。今はあわててはいけない。じっと我慢の時期だと私は思っている。若い人たちの感触を聞きたいと思っている。

世界の選挙結果を見ていると、「死の文明」の追求から「生の文明」の追求へと切り替えたいという潮流を感じる。21世紀以降の人類の目指すものは変わってくる。人類と地球の未来を案じる、世界中の若者たちが動き始めている。

\*\*\*\*\*

その他の公開中の本 (mori3580)

[若者国際連合一3 ～地球第一主義](#)

[若者国際連合一12 ～宇宙時代のルール創り](#)

[若者国際連合一11 ～再び北・核ミサイルの件](#)

[若者国際連合一10 ～北朝鮮が新時代を創る？](#)

[若者国際連合一8 ～今はただ我慢比べ](#)

[若者国際連合一7 ～丸腰は撃たない](#)

[若者国際連合一6 ～とうとう大統領になっちゃった](#)

[若者国際連合一5 ～トランプ氏とどう付き合うか](#)

[若者国際連合一4 ～国民投票・その時あなたは？](#)

[若者国際連合一 3 ～若連が世界を変える](#)

[若者国際連合一 2 ～若連が動き始めた](#)

[若者国際連合](#)

[若者が目覚めた](#)

[みんな目覚めた](#)

[みんな生きる](#)

[テロをなくす](#)

[戦争は怖い！ ～東京大空襲体験者からの平和のメッセージ](#)

## 若者国際連合一 9

<http://p.booklog.jp/book/115838>

著者 : mori3580

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/mori3580/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/115838>

電子書籍プラットフォーム : パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社トゥ・ディファクト